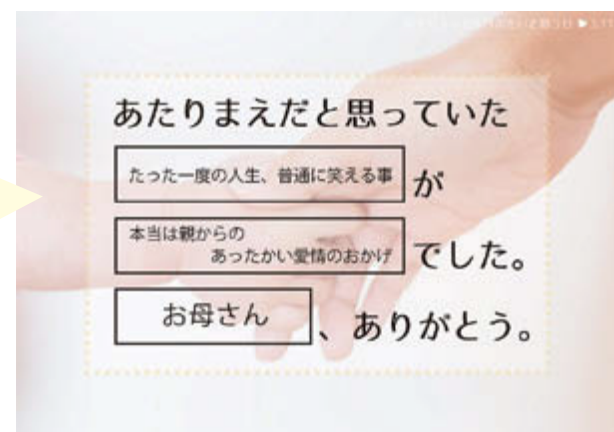


菅野秀一さん（伊達市）



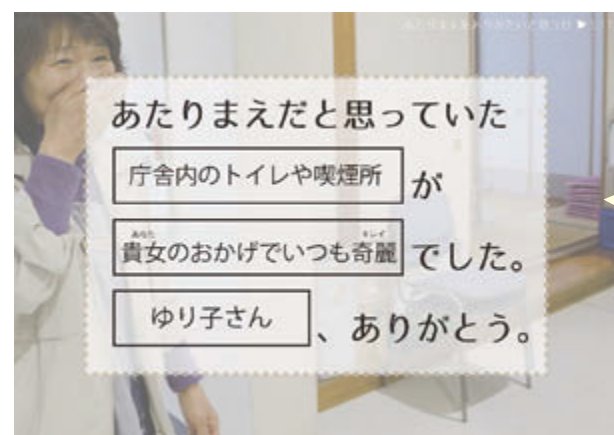
さまざまな事業を展開する村に以前から注目していました。今も仕事で村に関わっていますが、震災後の取り組みや村づくりにも、飯舘ならではのセンスを感じています。

杉下文代さん（長泥）



長泥で生まれ育った一人っ子。反抗的だった時期も、家族は愛情を注いでくれました。今笑顔でいられるのも親や家族のおかげ。ふるさと飯舘にも感謝をしています。

増永 浩さん（農水省出向職員／白石）



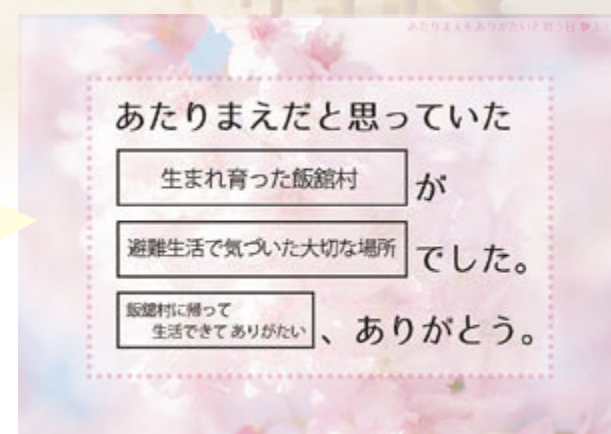
出向して村役場で仕事をしてきました。それもこの3月末で終わります。庁舎をいつもきれいにしてくれるゆり子さん。直接言えないお礼を、大喜利に託しました。

式に出席していただいた投稿者の皆さん。左から3人目から、鈴木さん、菅野さん、星さん、杉下さん、増永さん。投稿を寄せてくださった皆さまに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



3月10日、大喜利作品のお披露目の式を交流センター「ふれ愛館」で行いました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、式は一般公開せず、記者会見の形で行いました。応募してくださった方の中から、5人の方に会場にお越しいたいただき作品にこめた思いをお聞きました。紙上で皆さんにお伝えします。

鈴木みつ子さん（深谷）



空の色、吹く風、蝉しぐれ、鈴虫の声…村に戻って、自然を感じながら、夫婦で笑顔でいられる。こうしてまた暮らせて本当にありがたいと思っています。

星 勝昭さん（郡山市）



父は早く亡くなり、母も数年前に。ありがとうと言えないままでした。幸せてそういうものかと。過ぎてから分かる。今になって、ありがたさを思い返しています。

（投稿全文）あたりまえだと思っていた子供の頃、貧乏だったはずだけれども、いつも兄弟競ってご飯のおかわりをした。食べられなかったことは、一度もない。特においしいと思っていなかったが、大人になってから、ある時仕事で大きな町へ出張した。旅館のご飯は不味かった。不味い米を初めて食べた。旅館のご飯が不味かったわけじゃない。両親が作っていた米がうまさぎたのだ。気がつくのが遅すぎたのでした。父ちゃん、母ちゃん、ありがとう。